

5. 上位・関連計画

5-1 第2次弥富市総合計画

◆策定年次

平成31年3月

◆計画期間

基本構想：平成31年度～令和10年度（10年間）

前期基本計画：平成31年度～令和5年度（5年間）

◆将来像

地域でつくる「人・自然・文化」の調和 輝く未来へ繋ぐまち・弥富

◆目標人口

令和10年度 43,000人

◆都市空間像設定のポイント

- ・主要な機能・施設が集約し、にぎわいある中心拠点を核とした、コンパクトで利便性の高い定住空間を形成
- ・各地域で、市民の生活を支える機能や施設が集積する地域拠点を形成
- ・広域的な交流や産業の活性化に向け、各空間から全国へ広がる都市間ネットワークを形成
- ・中心拠点を核として各拠点間を結び、商業機能の充実、生活利便性の向上や地域間の連絡性を強化する地域内ネットワークを形成
- ・本市の産業を支える国際物流ネットワークを活用した産業空間を形成

◆基本目標

1. いつまでも住みたい安全・安心なまち
⇒重要施策) コミュニティバスの利便性向上
・市民生活に溶け込んだ移動手段を確保しながら、より効率的な運行体制にするため、地域公共交通網形成計画の見直しを行い、コミュニティバスの利便性の向上を図る
2. 笑顔あふれる、健やかで共に支え合うまち
3. 心豊かで文化を育む人づくりのまち
4. 人と地域の資源を活かし、にぎわいを生み出すまち
5. 良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまち
⇒重要施策) コミュニティバスの利便性向上
6. 市民と行政がつながり、共につくるまち

◆市内における拠点配置とネットワークの概念図



空間構造：現状の機能や地域の特性を活かした「住」、「農」、「産」の3つの要素を設定

中心拠点：交通結節点機能を主とし、消費や教養・学習、交流など多様な都市活動が展開される拠点

地域拠点：行政施設、商業施設等様々な公共施設が集積し、市民生活の利便性の向上や、交流・レクリエーション等を支える拠点

物流・交通拠点：港湾部や高速道路インターチェンジ、鉄道駅など、物流・交通機能を支える拠点

都市間ネットワーク：本市と中部地方の主要都市等をつ結び、物流・広域的な交流の主軸となる動線

地域内ネットワーク：市民の生活を支える主要な拠点を結び、市内の円滑な移動、交流を促す動線

物流ネットワーク：本市の物流産業を支える陸、海、空の動線

5-2 弥富市都市計画マスタープラン

◆策定年次

平成 31 年 3 月

◆計画期間

平成 31 年度～令和 10 年度（10 年間）

◆将来像

地域でつくる「人・自然・文化」の調和 輝く未来へ繋ぐまち・弥富

◆都市づくりの基本目標

1. 便利・快適に暮らせる コンパクトな都市づくり
2. ヒト・モノが行き交いにぎわう 魅力的な都市づくり
3. 水・緑と調和する 自然豊かな都市づくり
4. 安全・安心な生活を守る強くしなやかな都市づくり

◆交通の方針

- ・地域の公共交通であるコミュニティバスについては、地球温暖化防止や交通弱者の移動を支えることから、使いやすく効率的で持続可能な地域公共交通として発展し続けるために、地域特性や利用者特性に応じた継続的な改善を行います。
- ・平成 28 年 3 月に策定した「弥富市地域公共交通網形成計画」に基づき、鉄道やコミュニティバス、周辺自治体が運行するバスの乗り継ぎ環境の改善など、関係機関と連携して鉄道とバスの連携強化を進めます。

◆都市構造

都市拠点：交通結節機能を有する駅を中心に、商業・医療・福祉等の身近な生活サービス施設により市民生活を支える拠点

地域生活拠点：公共公益施設が集積し、生活サービス等により市民生活を支える拠点

物流・交通拠点：多くのヒトやモノの交流・流通を支える広域ネットワークの結節点

緑の交流拠点：市民や来訪者が、“水と緑”を体感できる 憩い・ふれあい・交流の拠点

にぎわい交流拠点：広く来訪者を呼び込み、ふれあい・交流によるにぎわいを生む拠点



5-3 弥富市立地適正化計画

◆策定年次

令和2年3月

◆計画期間

令和2年度～令和17年度（16年間）

◆将来像

地域でつくる「人・自然・文化」の調和 輝く未来へ繋ぐまち・弥富

◆都市づくりの基本目標

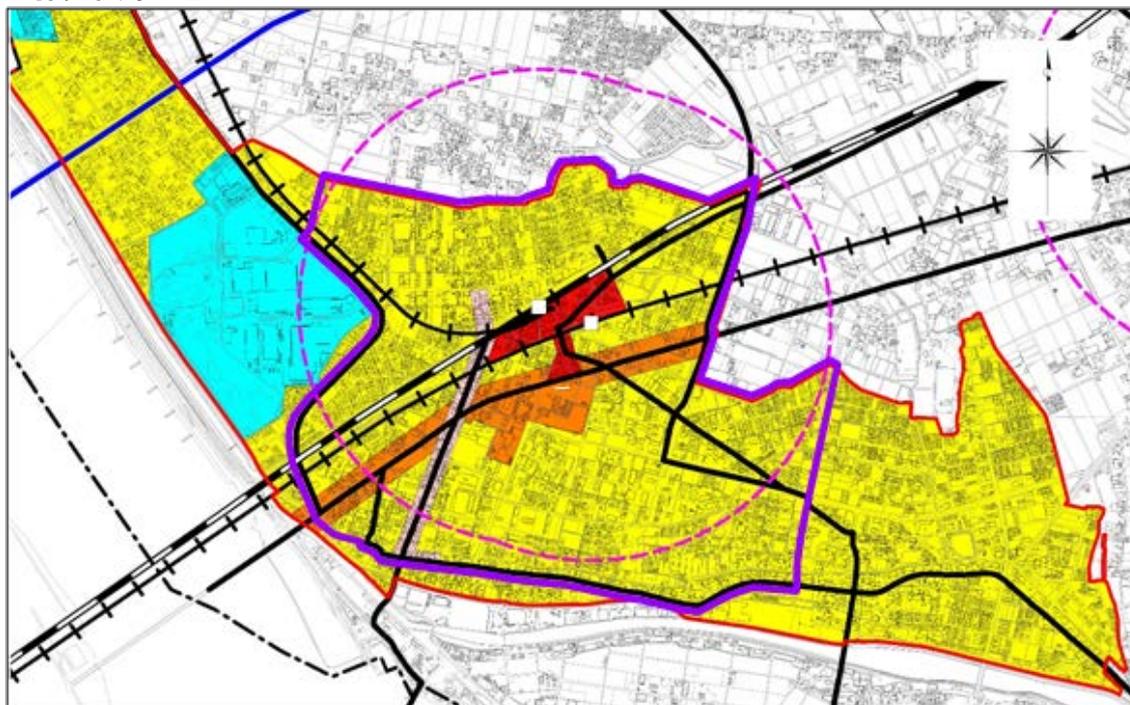
- ・便利・快適に暮らせるコンパクトな都市づくり
- ・ヒト・モノが行き交いにぎわう魅力的な都市づくり
- ・水・緑と調和する自然豊かな都市づくり
- ・安全・安心な生活を守る強くしなやかな都市づくり

◆目標

- ・居住誘導区域の人口密度：88.70人/ha
- ・生活サービス施設：現状維持（医療1施設、福祉5施設、商業4施設）
- ・鉄道駅の乗車人員：約420万人/年（約11,500人/日）

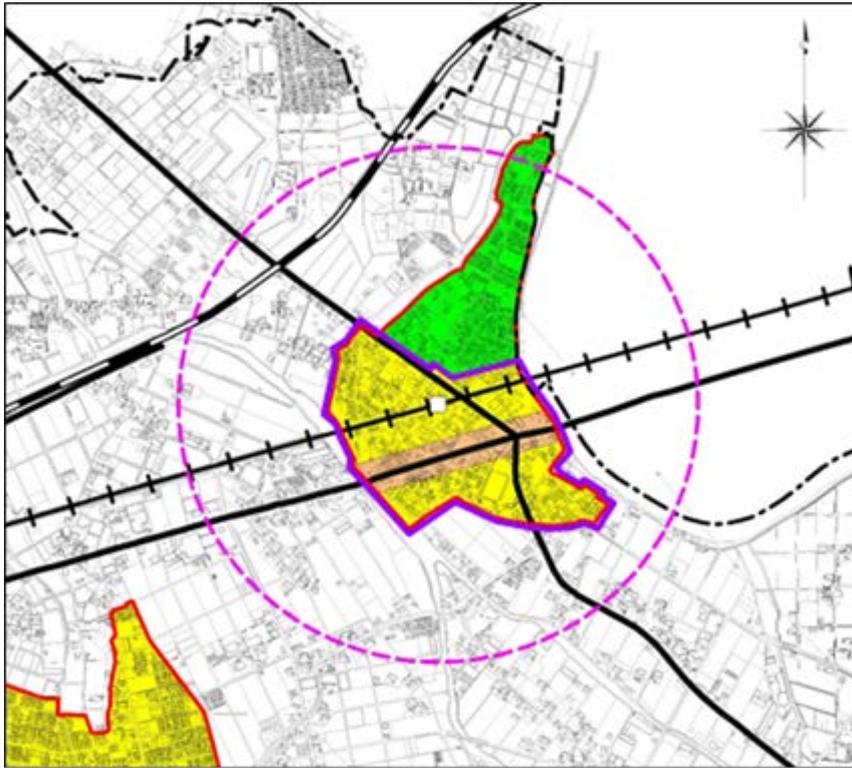
◆都市機能誘導区域

弥富駅周辺地区



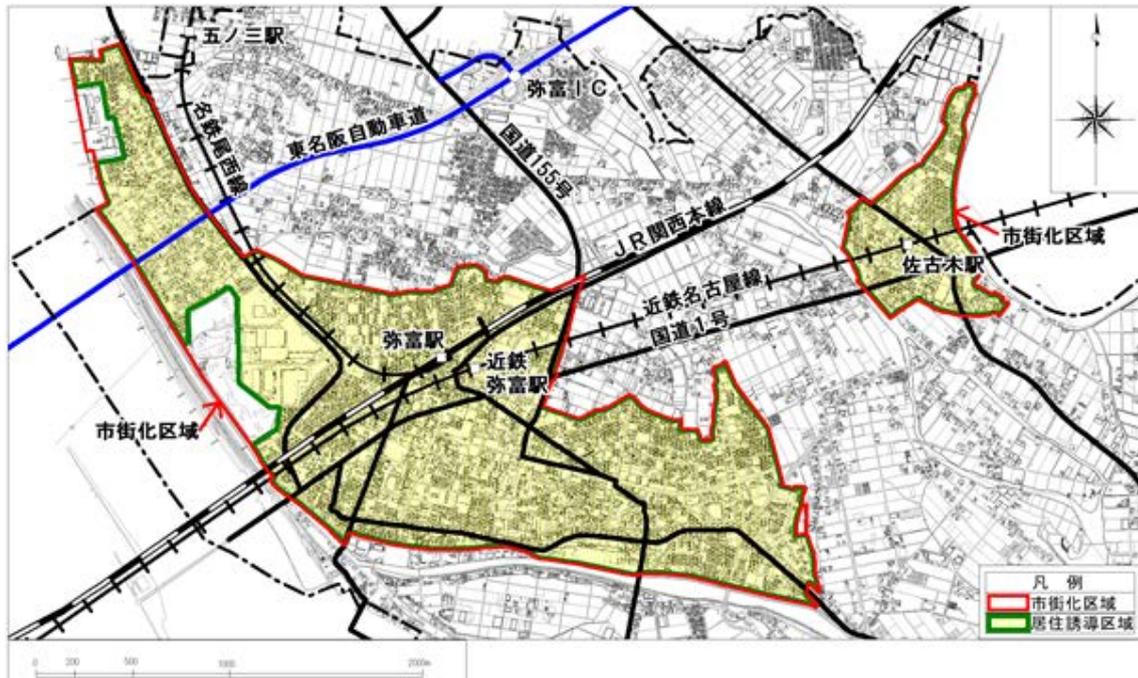
 都市機能誘導区域

佐古木駅周辺地区



都市機能誘導区域

◆居住誘導区域



5-4 弥富市地域公共交通網形成計画(現行)

◆策定年次

平成 28 年 3 月

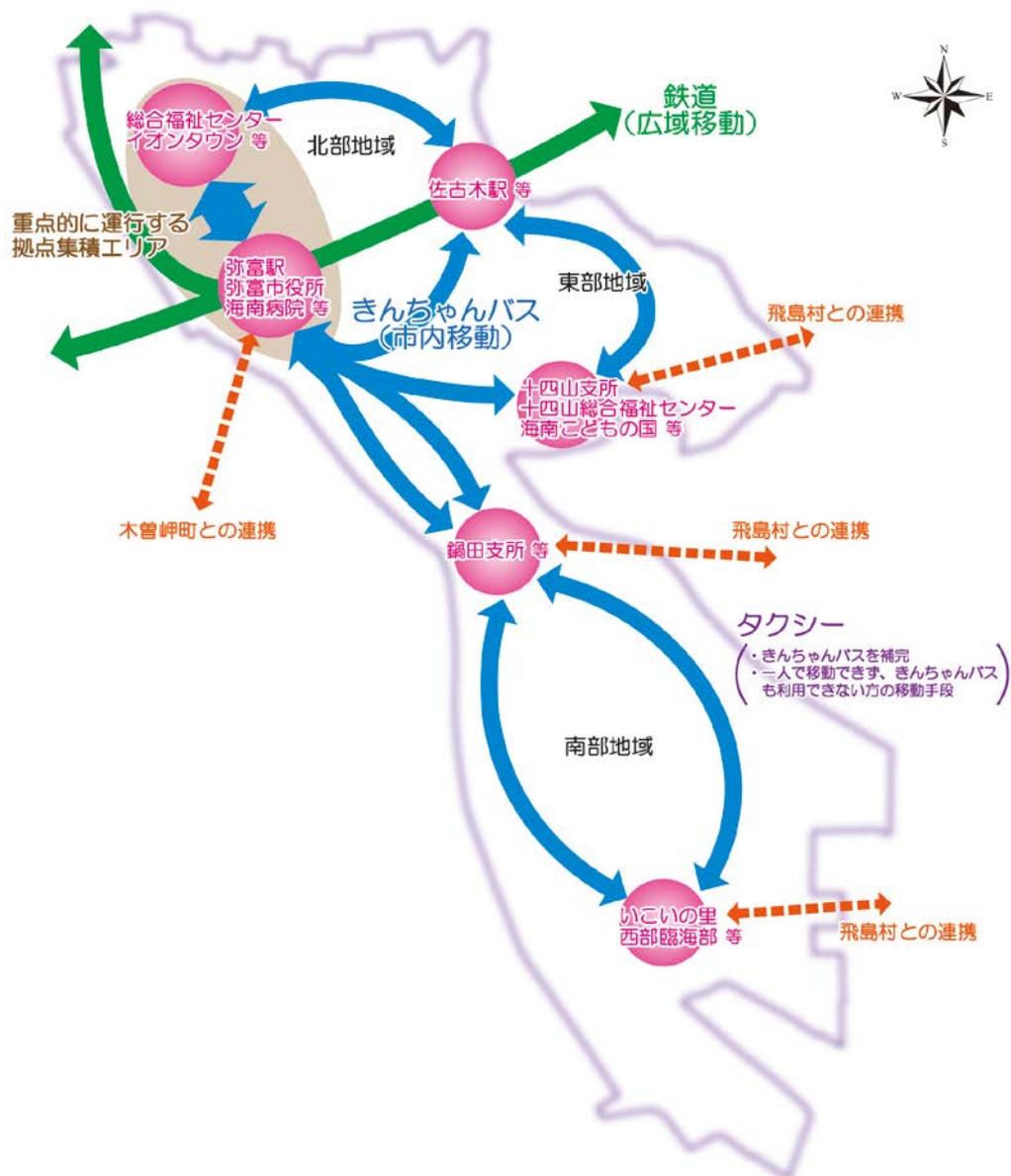
◆計画期間

平成 28 年度～令和 2 年度 (5 年間)

◆基本方針

市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持

◆目標年における拠点を結ぶ地域公共交通の展開イメージ



◆基本方針に基づく目標

- 1 便当たり平均乗車人員の維持・増加
- 利用者満足度の向上

指標		現況(基準) 平成27年度 H27.4~H27.8	目標※3 令和2年度
1 便当たり 平均乗車人員※1	全ルート	8.1 人/便	9.8 人/便
	北部ルート	7.4 人/便	11.8 人/便
	南部ルート	8.7 人/便	8.7 人/便※4
	東部ルート	7.6 人/便	9.5 人/便
利用者満足度※2		49.1%	50.0%

※1：1 便当たり平均乗車人員の年度は4月～翌年3月を1年度としている

※2：利用者満足度は「無回答」を除いた場合の割合としている

※3：目標値は過去の実績を直線トレンドした数値としている

※4：減少傾向のため現状維持を目標としている

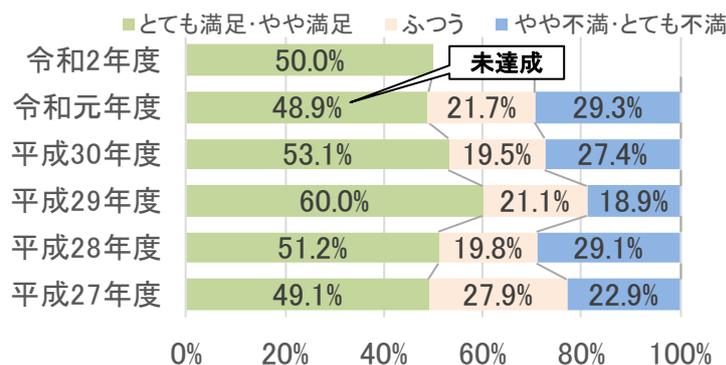
■目標達成状況の評価

- 1 便当たり平均乗車人員については、北部ルートが未達成となっているが経年的には増加傾向を維持しており、計画策定時点の現況値から37.8%増となっている。一方で南部ルートは維持目標であったものの増加し、東部ルートも目標を大きく上回るなど、全ルートで現況値から増加している。
- 利用者満足度は未達成となっているが、前年までは50%以上を確保していた。これは、平成29年度の満足度のピークから3年が経過し、需要等の変化が生じている可能性がある。また、不満理由の多くが「運行便数が少ない」となっており、特に南部ルート利用者からの意見が多い。

1 便当たり平均乗車人員の推移 (人/便)

	現況(基準) 平成27年度 H27.4~H27.8	実績 平成27年度	実績 平成28年度	実績 平成29年度	実績 平成30年度	実績 令和元年度	基準から の伸び率	目標値 令和2年度	評価
全ルート	8.1	8.0	8.7	9.0	9.2	9.6	+18.5%	9.8	ほぼ達成
北部ルート	7.4	7.5	8.3	9.0	9.8	10.2	+37.8%	11.8	未達成
南部ルート	8.7	8.4	9.0	8.8	8.4	8.9	+2.3%	8.7	達成
東部ルート	7.6	7.8	8.6	9.4	10.3	10.2	+34.2%	9.5	達成

利用者満足度の推移



◆事業実施状況(1/2)

施策の方向性	実施事業	事業実施状況
地域特性や利用特性に応じた改善による効率化	(1) 地域特性や利用特性に応じた運行改善	・毎年モニタリング調査を実施し、平成 28 年 1 月及び平成 31 年 4 月にダイヤ改正を実施
	(2) 海南病院改築に伴うルートの見直し	・平成 31 年 4 月にダイヤ改正時に、海南病院への乗り入れを実施
	(3) 東部ルートの運行方法の見直し	・東部ルートの運行ルートの見直しを検討し、平成 30 年 2 月にパブリックコメントを実施したが、意見を踏まえ、現行の運行ルートを維持
	(4) 観光と連携した運行方法の見直し	・イベント時などの運行は別途シャトルバスの運行により対応
	(5) 福祉タクシー料金助成事業の実施	・75 歳以上の運転免許返納者を対象に追加し、継続的に実施中
	(6) 適正な車両サイズへの見直しやバリアフリー等に対応した車両の導入	・現時点では車両更新時を迎えていない
料金負担の軽減による利用促進	(1) 75 歳以上への無料パスカードの配布	・継続的に実施中
	(2) 定期券、回数券、シルバーパス等の販売	・継続的に実施中
乗り継ぎ利便性の向上による利用促進	(1) 周辺自治体と連携した乗り継ぎ環境の改善	・今後も継続的に検討
	(2) きんちゃんバス相互や周辺自治体が運行するバスとの乗継券の発行	・きんちゃんバス相互については乗継券を発行中 ・周辺自治体が運行するバスとは今後も継続的に検討
	(3) サイクル&バスライド駐輪場の設置	・市内 6 箇所に設置
	(4) 乗り継ぎバス停環境の改善	・今後も継続的に検討
	(5) IC カードの導入	・今後も継続的に検討
人と環境にやさしい地域公共交通への改善	(1) モビリティ・マネジメントの実施	・各種アンケートの実施時やイベント開催時に情報提供を実施
	(2) ノーマイカーデーの実施	・毎月第 1 水曜日にエコモビの日を実施
	(3) 乗務員研修の実施	・継続的に実施中
分かりやすい情報提供による利用促進	(1) 分かりやすい時刻表の作成、配布	・現在の時刻表には、スマートフォンからも情報にアクセスしやすいように QR コードを掲載
	(2) ポケット時刻表の作成、配布	・ダイヤ改正時に作成
	(3) 乗継券発行バス停等への乗り継ぎ時刻表等掲示	・時刻表に飛島公共交通バス蟹江線などのダイヤを掲載
	(4) 市 HP へのきんちゃんバスや周辺自治体が運行するバスの情報掲載	・市 HP に情報掲載中
	(5) 周辺自治体 HP へのきんちゃんバス情報掲載	・飛島村 HP(蟹江線)、木曾岬町 HP(自主運行バス関係機関リンク)にリンク掲載中
	(6) バス運行情報の提供	・駅すばあと、NAVITIME などの検索対応済 ・バスロケーションシステム未導入

◆事業実施状況(2/2)

施策の方向性	実施事業	事業実施状況
認知度向上による利用促進	(1) 主要施設へのきんちゃんバス情報掲示	・市役所や総合福祉センターなど主要な施設に時刻表を掲示
	(2) イベントの場を活用したきんちゃんバスの周知活動の展開	・やとみ春まつりや健康フェスタ等できんちゃんバスブースを設置し、周知活動を実施
	(3) 講演会や講習会の開催	・地域公共交通講演会を開催
	(4) 無料お試し乗車券の配布	・毎年継続的に実施中
地域で創り、支える仕組みづくり	(1) 弥富市地域公共交通活性化協議会の開催	・毎年継続的に開催中
	(2) 地域の集まりの場を活かした意見交換会の開催	・住民意見交換会を開催
	(3) 快適なバス待ち環境の創出	・今後も継続的に検討
	(4) バス協賛金事業の展開	・継続的に実施中

■事業実施状況の評価

- 位置づけられた事業の多くは計画通り実施されており、利用者も増加するなど一定の効果を発揮しているものと考えられる。
- 一方で、「周辺自治体と連携した乗り継ぎ環境の改善」や「周辺自治体が運行するバスとの乗継券の発行」、「ICカードの導入」など、フィーダー系統[※]であるきんちゃんバスにとって重要となる“公共交通相互の乗り継ぎ利便性の向上”に係る事業について実現には至っておらず、今後の実現が望まれる。

※フィーダー系統：幹線系統となるバス路線などに接続する支線系統のこと。